

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学校評価報告

草加市立小山小学校

(平成31年2月10日作成)

1 学校教育目標 ○進んで学ぶ子・・・基礎学力の定着を図る ○思いやりのある子・・・豊かな心の育成を図る ○体をきたえる子・・・体の健康づくりを図る ○ねばり強い子・・・心身の健康づくりを図る	
2 重点目標・努力目標 ◇学習指導の充実 ◇生徒指導・教育相談の充実 ◇心の教育の充実 ◇体力向上の充実と健康教育の推進 ◇安全教育の充実 ◇教育環境の整備・充実 ◇家庭・地域との連携	3 前年度の成果と課題 成果 ○基礎的・基本的な知識、技能の定着 ○言語活動の充実を意識した授業作り ○幼保小中を一貫した体制の強化 課題 ●基礎的・基本的な知識、技能の活用能力の向上 ●基本的生活習慣のさらなる徹底 ●幼保小中を一貫した体制の一層の推進

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教職員一人一人が学校経営方針を理解し、主体的に職務を遂行したことで児童の成長が多方面で見られた。 ○教育活動に関する保護者アンケートでは、「できている」とする回答が8項目中6項目で95%を越えた。 ○各主任を中心に校務分掌を活かして組織的に諸活動に取り組めた。 ○予算執行状況の定期的な確認及び各主任との連携により、適切に執行することができた。 ●対外行事への取組の工夫、校務分掌の一層の工夫を推進する。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○「知・徳・体の調和のとれた子どもの育成」をテーマに、道徳科、国語科の授業を中心に研究を進め、児童の学力向上を図った。 ○OJT研修を中心として職員間で日常の授業を互に見合う場を計画的に設定し、管理職を含め相互に助言し合うことで、一人一人の授業力が確実に向上した。 ○全教員が全国学テ・県学テの結果を踏まえつつ児童の実態を分析し、その対策を共通理解することで授業力向上に成果が見られた。 ●校内研修の更なる充実を図り、またOJTを活用し、教員個々に対して適時性をもった指導を継続する。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健安全計画に基づき、教育、管理、点検等を徹底することができた。 ○日常の安全点検・定期点検を、年間を通して推進したことで、迅速な修繕が図られ、安全・安心な環境を継続することができた。 ○地域防災訓練への児童の参加、防災備蓄米の炊飯体験、避難訓練等を実施したことで児童の防災意識が向上した。 ●各取組を継続・発展させ、児童の防災意識の一層の向上を図る。

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内個人情報管理規定に基づき、個人情報の適正な管理ができた。 ○個人情報の取扱に関する保護者、PTAへの啓発を図ることができた。 ○情報教育機器の導入と活用に向けた校内研修を実施し施設設備の有効活用を推進した。 ●校務で使用するPCの適切な使用及び個人情報管理の徹底を継続する。
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページの更新や、学校公開・授業参観を通して教育活動の広報に努め、関連する保護者アンケートで約9割が「できている」と回答した。 ○PTAや地域との協力連携により、学校教育の質の向上を図ることができた。 ●保護者、地域との連携をより一層深め、安心・安全な学校づくりを推進する。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○培った力を中学校生活のスタート時から活用・進展できるように小小連携を深めた。 ○中学校区合同会議を定期開催し、小中一貫に向けた情報共有と方向性の確認ができた。 ○園児を招いた交流給食会を実施し、児童の自己有用感を高めた。 ●幼保小中の連携を推進し連続性のある学びと新環境への適応を目指した取組を強化する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数の進捗状況を毎月確認し、教育課程の適切な実施を管理した。 ○学年会等において、指導法の工夫・改善を適宜行い、児童の実態に即した学習活動を実施することができた。 ●授業時数、学習内容ともに適切な教育課程の実施を継続する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 わかる授業づくり 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートにおける「授業は楽しい」の項目では91%、「授業は分かりやすい」の項目では96%が「そう思う」と回答しており、わかる授業が実現できている。 ○「小山っ子の学びを支える授業の5ヶ条」に基づいた授業を全学級で実施した。 ●「聞く力」「話す力」「書く力」の育成を目指した授業実践の充実を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○指導法及び評価等に関する研修を通し、学校全体の道徳授業の質の向上が図られ、合わせて指導法の工夫・改善が見られた。 ○「道徳の指導計画」に基づき、児童の実態に即した指導を行うことができた。 ○学校公開日に「命の授業」を親子学習会として実施し、家庭・地域との連携を深め、いのちの教育の推進を図った。 ●考え、議論する道徳の一層の推進に努める。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領の実施に向け、3年生以上の外国語活動を適切に実施するとともに低学年でもALTを活用した外国語に親しませる授業を計画的に実施した。 ○指導法及び評価等に関する研修を通し、学校全体の外国語活動・外国語の指導法の研究を進めた。 ●教職員の一層の指導力向上を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動、各行事やクラブ活動等、子供たちが自ら運営する場を意図的に設けた。児童同士のふれあいと協力する大切さを学ばせることができ、一人ひとりの居場所作りにつながった。 ○委員会紹介集会を年2回実施することにより、よりよい学校作りのために努力する児童が増えた。 ●全員に居場所のある学級経営を一層推進する。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動やICTを活用した学習、地域の施設や人材を活用した創意ある授業実践を展開することができた。 ●地域の特性を活かした体験的な学習の推進。

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	B	<p>○生徒指導・教育相談委員会を毎月開催し、情報共有及び指導内容の協議・共通理解を図り適時性をもった指導を行うことができた。</p> <p>○学期ごとの「学校生活実態調査」、隔月の「ハートの日」の実施により児童理解に努めるとともに、保護者への積極的な情報提供を通し、連携強化に努めた。</p> <p>●組織的な指導体制に基づく指導手順についての共通理解・共通行動の徹底。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○各教科等におけるキャリア教育の視点を明確にするとともに、校外学習を含む全教育活動において身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上を図ることができた。</p> <p>●勤労を重んじる態度、夢や希望、憧れる自己イメージの獲得にむけた教育の推進。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<p>○巡回相談の活用や草加かがやき特別支援学校との連携により、配慮が必要な児童への手立てを踏まえて、指導に当たることができた。</p> <p>○交流及び共同学習を取り入れることで児童同士の学びの機会を増やすことができた。</p> <p>●一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努める。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○館内掲示物の充実や読書スタンプラリー等の委員会活動の工夫により、多くの児童が図書に親しんでいる。</p> <p>○読み聞かせボランティアや図書委員による本読み隊など、本とふれあう機会を意図的に設定し、本好きな児童を増やすことができた。</p> <p>●読書習慣の一層の定着を図る。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○ICT支援員を活用した授業を積極的に実施した。</p> <p>○学校公開日に親子学習会として外部講師を招いた「e-ネット安心講座」を実施するとともに、家庭向けに「スマートフォン等の利用に関するお願い」を作成し、家庭・地域との連携した情報モラル教育を推進した。</p> <p>●児童の情報モラルに係る意識の向上を図る。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○人権教育に関わる研修を計画的・継続的に実施し、指導力向上を図るとともに、研修を活かした授業を実施した。</p> <p>○全校朝会における人権に関する講話、お知らせや校内放送による人権教育に関する授業の児童の感想の紹介等、教育活動全体を通じて人権に関する意識を高められた。</p> <p>●「人権感覚育成プログラム」を用いた学習などの参加体験型学習の充実。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが分かる授業実践 家庭との連携 各種学力学習状況調査結果の向上 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートの「授業は楽しい」の項目では91%、「授業は分かりやすい」の項目では96%が「そう思う」と回答しており、わかる授業が実現できている。(再掲) ○「家庭学習の手引き」「自主学習について」を配布し、家庭と連携して家庭学習の定着と充実を図った。 ○優秀な自主学習ノートを紹介することで児童の意欲が高まった。 ○全国学力学習状況調査では県平均との差が縮まり、県学力学習状況調査ではどの学年も「上回る」「同程度」で学力の伸びが見られた。 ●伸びる児童の割合を高めることを目指し、指導方法の研修を継続・発展させる。
	②規律ある態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、返事、靴そろえ、チャイム着席、黙働清掃、正しい姿勢(立腰)の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の共通理解のもと指導の徹底が図れた。 ○児童アンケートでは「進んで挨拶をしている」が90%、「黙働清掃に取り組んでいる」が80%と高い割合を継続できた。 ●家庭との連携を深めながら継続指導を行う。
	③体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に運動する授業の実践 体育的活動の充実 体育に関する研修の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○業間時間を利用した3分間走「コヤマラソン」や、筋力を高める運動「コヤマッスル」を取り入れ、体力と忍耐力の向上を図った。 ○一人ひとりの豊富な運動量を確保した体育授業の実施、持久走大会などの体育的行事への積極的な取り組み、外遊びの励行、各種体育大会に向けた練習等で体力が向上した。 ●児童が意欲的に取り組む体育授業・体育行事の更なる充実を図る。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

学校教育目標の具現化を目指し、全教職員による協働意識のもと教育活動に取り組んだ。「地域が誇れる学校づくり」「自己効力感の育成」を念頭に、学年・学級経営の充実、学習指導の充実、道徳・人権教育の推進、子どもを取り巻く環境全体の連携推進、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実を重点として教育活動を展開してきた。その成果として、保護者による学校教育活動アンケートで「健康や安全を配慮している」98%、「基礎学力が身につく授業が行われている」96%、「困ったときに相談しやすい学校である」95%、また、児童アンケートで、「学校生活は楽しい」95%、「授業は楽しい」91%、「授業は分かりやすい」96%、「困ったときに相談できる先生や友だちがいる」95%と高い割合の肯定的な回答を得られた。学校関係者評価でも、「どの学級も落ち着いた雰囲気ですっきりとした学びの場がある」「困ったときに相談できるということは素晴らしい」といった評価を得た。今後も学力向上及び自己効力感を育成する教育の充実に向けて、指導方法や指導体制、評価の工夫改善に努めていく。

6 次年度の改善策

○学力の向上

- ・「聞く力」「話す力」「書く力」を育成する実践を増やし、言語活動の充実を図る。
- ・学習意欲を醸成させる効果的な方策の共有化を図り、学校全体として学級経営の充実を図る。

○生徒指導・教育相談の充実

- ・組織的な指導体制の構築と指導手順についての共通理解を図り、いじめの未然防止、早期対応を徹底する。

○幼保小中を一貫した教育の推進

- ・校種間の違いを相互理解し、15年間の成長を念頭においた必要性と効果のある取組の工夫・実践の充実を図る。